

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものです。

(1) 業績の状況

当第2四半期連結累計期間（4月－9月、以下「当第2四半期」）の概況

売上高は36,385百万円（前年同期比25.0%増）、営業利益2,176百万円（前年同期は営業損失1,859百万円）、経常利益2,144百万円（同 経常損失1,738百万円）、四半期純利益1,434百万円（同 四半期純損失980百万円）となりました。

業績変動の主因は、下記の通りです。

遊技機事業において、パチンコ・パチスロともに販売が好調に推移したため、販売台数が前年同期と比較して増加し、上述の経営成績となりました。

（中長期的な成長戦略）

当社グループは、キャラクターをはじめとしたIP（知的財産）を主軸において、取得・保有・創出したIPの価値を最大化することで、中長期の視点に立った持続的な成長を目指しています。

この実現に向けて、現在、コミックス、アニメーション、映画/テレビ/舞台、ゲーム事業などのインタラクティブ・メディア、コンシューマプロダクト、パチンコ・パチスロの6分野で、IPの価値向上を推進するとともに、各分野が連携してIPの育成・事業化に取り組んでいます。

当第2四半期の主なIPの育成・事業化の取り組みは、以下の通りです。

ヒーローの創出を目的としたコミック誌『月刊ヒーローズ』は、連載作品『ULTRAMAN（ウルトラマン）』の単行本第3巻を刊行し、累計発行部数が約90万部に迫るなど、順調に推移しています。

『銀河機攻隊 マジェスティックプリンス』は、コミック誌と連動したテレビアニメとして、全24話の放送にあわせ、グッズの開発・販売を行いました。さらに、ソーシャル・ゲーム（ネイティブ・アプリ型）の開発を進めるなど、多メディア展開に向けた施策を進めました。

『バルセルク』は、アニメーション映画（3部作）の公開に次いで、ソーシャル・ゲーム（WEBアプリ型）やパチンコ遊技機を企画開発・販売しました。

『ウルトラマン』シリーズは、コミックスを通じて新たなファン層の獲得を図るとともに、ファミリー層のファン拡大に向け、『ウルトラマンギンガ』『大怪獣ラッシュ ウルトラフロンティア』のテレビ放送や映画公開、パートナー企業と連携したアーケードゲームの展開を進めました。また、遊技機メーカーと連携し、パチスロ遊技機の企画開発及び販売に向けた諸施策を実施しました。

インタラクティブ・メディアの分野では、当第2四半期にソーシャル・ゲーム4タイトルを配信しました。パチンコ・パチスロの分野では、パチンコ遊技機の販売台数が約110,000台（前年同期比 約63,000台増）、パチスロ遊技機の販売台数が約61,000台（同 約7,000台増）となりました。

（注）本文に記載の商品名は各社の商標または登録商標です。

(2) 財政状態の分析

(資産)

流動資産は、49,426百万円と前連結会計年度末比23,283百万円の減少となりました。これは主に売上債権の減少によるものです。

有形固定資産は、11,612百万円と前連結会計年度末比461百万円の増加となりました。これは主に支店の新設用地取得によるものです。

無形固定資産は、4,552百万円と前連結会計年度末比11百万円の増加となりました。

投資その他の資産は、18,183百万円と前連結会計年度末比42百万円の減少となりました。これは主に投資有価証券の増加及び長期繰延税金資産の減少によるものです。

以上の結果、資産の部は83,774百万円と前連結会計年度末比22,853百万円の減少となりました。

(負債)

流動負債は、23,424百万円と前連結会計年度末比23,940百万円の減少となりました。これは主に仕入債務の減少及び未払法人税等の減少によるものです。

固定負債は、4,243百万円と前連結会計年度末比79百万円の増加となりました。

以上の結果、負債の部は27,668百万円と前連結会計年度末比23,861百万円の減少となりました。

(純資産)

純資産の部は、56,106百万円と前連結会計年度末比1,008百万円の増加となりました。これは主に利益剰余金の増加によるものです。

(3) キャッシュ・フローの状況の分析

当第2四半期連結累計期間末における現金及び現金同等物（以下、「資金」という。）は、前連結会計年度末に比べ7,601百万円減少し、15,708百万円となりました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果使用した資金は、4,554百万円（前年同期は1,070百万円の収入）となりました。これは主に仕入債務の減少22,451百万円、売上債権の減少20,429百万円、法人税等の支払3,844百万円等によるものです。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は、1,650百万円（前年同期は2,625百万円の支出）となりました。これは主に有形固定資産の取得による支出913百万円、無形固定資産の取得による支出657百万円、貸付けによる支出230百万円等によるものです。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は、1,387百万円（前年同期は1,111百万円の支出）となりました。これは主に配当金の支払828百万円、社債の償還による支出300百万円、短期借入金の返済による減少130百万円等によるものです。

(4) 研究開発活動

該当事項はありません。